

久良岐便り

第70号



年が明けると、久良岐の園庭からお餅をつく音と歓声が聞こえてきました。2日にわたる2回のおもちつきはお天気もよく、皆さんがのんびりと過ごしています。間もなくやってくる春に思いをはせながら、白いうさぎが跳ねるようにわたし達もちいさなチャレンジとジャンプを重ねていきたいと思います。

社会福祉法人

久良岐母子福祉会

〒232-0063

横浜市南区中里 3-23-1

☎ 045-731-5994

fax 045-721-3166

<http://www.kuraki-boshi.or.jp/>

理事長のご挨拶

社会福祉法人久良岐母子福祉会

長井 晶子

明けまして おめでとうございます。

今年の元旦は穏やかな晴天に恵まれ、清々しい気持ちで新年を迎える事ができました。

昨年は夏場にコロナ感染者が急増するなどコロナウイルスが猛威を振るい、各施設は対応に苦慮を致しました。一時保育園は休園をする事になりました。

感染が比較的落ちついた秋には、運動会を実施する事ができ、子ども達の成長した姿をご家族にお見せすることができました。

他の秋の行事である芋掘り焼き芋、作品展なども順次実施出来、子ども達の体験・経験の機会も保つ事ができました。

久良岐母子福祉会では、令和5年度以降に実施できる地域福祉を考えるため「地域福祉戦略会議」を各施設の職員で立ち上げました。

これは法人の近未来の地域福祉計画の方向性を示す羅針盤となります。

施設が地域の中にあつて良かったと思つて頂ける運営を目指して、地域の視点で取り組める内容を現在模索中です。ご期待下さい。

皆様にとりまして 良い年となります様祈念して年頭のご挨拶と致します。

新しい年を 迎える



年末もいつもの業務が続いています。職員の報連相を受けながらお正月の支度をする長井理事長です。



熊野神社への参道に立てられた幟(のぼり)が師走の風にはためいています。



熊野神社への参道に立つ白い幟(のぼり)が、新しい年がやってくると知らせています。大掃除とお膳にのぼるおせち料理は今でも多くの方が仕度しますが、久良岐ではさらに長井理事長が活けるお花が新しい年の喜びを広げていきます。

子どもはおとなや社会の様子を实によく見ている、いつもとは違うおとなの仕事に感じるものがあり、松の枝ぶりや柳のしなやかさをきつと覚えていることでしょう。

乳児院の各ホームにも、松や黄色やピンクの可愛いらしいお花が飾られました。

2～3年目研修

法人理念と実践の繋がりについて

令和4年8月23日
久良岐母子福祉会館 研修室にて
講師 十文字女子大学
潮谷 恵美先生



令和4年度の2～3年目研修は総人数の関係上、2回に分けての開催となりました。間に久良岐にもコロナの影響もあり1回目(8月)の開催は集合研修から急遽リモートでの分散した受講形式となり、11月開催の2回目においてもZOOM下での研修を行いました。

研修テーマは「法人理念と実践の繋がりについて」。十文字大学の潮谷恵美先生を講師にお招きし、着任から現在まで行ってきた事、理念、実践の位置づけ、これからの取り組みについてワークを通して学んでいきます。

こういった研修機会があるからこそ同期職員との繋がり、それぞれの抱える課題、悩みなど話す場でもあるかと思えます。自分がなぜこの職場を選んだのか、初心にかえったという声も聞かれました。その自分が選んだ施設、保育所という職場はそれぞれ生活に深く関わる場であり、専門職として、チームとして、自己実現の場として、という目的に対する統合の場であるとの話をいただきました。

仕事は職場における問題解決の繰り返しです。今の自分の段階、立ち位置、出来る事、これから学び行っていく事、その為には何をしていくか、と最終的に自身でアクションプランをたてていきます。

研修対象は2～3年目職員ですが、経験年数を重ね段階が変化してきていても職場においてこのPDCAサイクルは継続していくこと、理念に立ち戻り実践に繋げていくことは共通であり先輩職員もこのサイクルの中で職務にあたる事を忘れてはいけません。

研修は2回に分けた為、3ヶ月の間があきました。又、2年目と3年目職員が合同に研修する中で先に学んでいた力も感じたワークでの発表もあり、少しずつではありますが積み重ねていく効果も感じられました。

まだコロナ禍という状況下でも学びを止めずにリモート下での研修環境の工夫も人材育成委員会としてスキルの向上を求められていると痛感した研修にもなりました。

(人材育成委員 前田)

4～5年目研修

仮題解決の道すじ

(解決プロセスの演習)

令和4年11月24日

久良岐母子福祉会館 研修室にて

講師 小出 太美夫先生



今年度、4～5年目職員研修は「身近な業務上の課題設定と問題解決」を目的として、「課題解決の道筋(解決プロセスの演習)」というテーマの研修でした。

4～5年目の中堅職員は自立した職員像として、「主体的に目標を設定し、責任をもって問題を解決できる職員を目指す」そのトレーニングであるとの話がありました。

今回9名が参加し、2グループに分かれ、講義とグループワークを通しての学びとなりました。昨年度までの4～5年目職員研修は、「問題解決」としていたところが「課題解決」とし、『課題』について認識することからスタートしました。

目標と現状のギャップを明らかにすることが、課題を明らかにすることにつながり、目標があるから現状との差があることで課題となり、この研修の学びで重要視されているのは、目標を明確にすることです。

今回、グループで共通する目標を決めるにあたり、マンダラチャートを用いて行いました。大目標を「中堅職員としての自立」と提示し、課題解決に向けて取り組みたい目標を1つ決めるというワークから始まりました。まずは一人でマンダラチャートと向き合い、考え、グループメンバーと照らし合わせながら、相手の話を聞き、目標設定へと進みました。この目標を決めるまでが、一番時間をかけるところであり、どちらのグループも頭を悩ませ、話し合いを重ねました。

話し合いが進み、自分たちがたてた目標に対して課題、原因、手立てと順を追って考えていく中で、設定した目標に向かって考えていく中で、なかなか話し合いが進まないこともあり、ワークが進む中で目標が曖昧であったとの気づきや学びになる場面もありました。

中堅職員といわれる年代に入った職員が、今回の研修で学んだ「課題について深めて考える」ということができるようにしていったほうがいいと思います。

(人材育成委員 中村)

6～9年目研修

問題解決の道すじ

(解決のアプローチの演習)

令和4年12月15日

久良岐母子福祉会館 研修室にて

講師 小出太美夫先生

6～9年目研修は、施設、職種も違う11名が3グループに分かれ講義、演習に取り組みました。解決に向けたプロセス手順については今まで何度も研修で学んでいます。このプロセスで考えることに慣れていない、日々仕事に追われている職員にとっては、改めて一つひとつ洗い出し、ゆっくり丁寧に考えていく事が出来、学びなおす機会になりました。

今回は「権利擁護(をすすめる)」大目標として自身、グループで考えました。

1. 大目標を達成するための小目標を設定。
2. 現状を知る、理解をする。
3. 現状と目標の差を明らかにする。目標に至っていないのは「なぜか」を考え、原因を洗い出し分解の樹でまとめる。
4. アイディアを絞り込み、優先順位を決め、手立てを考える。

1～4を付箋を使いグループ内で整理していくと、今抱えているそれぞれの課題、職場やチームとしての課題、自分自身の課題が明確になっていきます。

3つのグループそれぞれがこの手順で取り組みましたが、全体の発表を聞いてみると課題や手立てとしての項目は似た内容が多くあがりました。課題やその為に分が出来ること、自身の足りないこと、その手立てとして何が必要かを共有し再確認(仕事量、時間の使い方、利用者との関係、人材育成の必要性、職員間の連携、自身のスキルアップや自己コントロール等、余裕を持つ等)できました。

中堅職員として、理念を意識しながら主体的に目標を設定することができること、特にその中でも、チームとして組織を意識すること、チーム全体で何が最適なのかを必ず考えながら行動する事が求められています。今回、問題解決のプロセス、チームと自分の立ち位置についても改めて振り返ることができた研修だったのではないのでしょうか。

(人材育成委員 伊神)



新任研修

ふり返り

令和4年12月20日

久良岐母子福祉会館 研修室にて

講師 人材育成委員長

鈴木 三四朗



今回は9名が参加し、2グループに分かれ、講義とテーマである様々なことを振り返り、グループ毎に話し合い、シェア、発表をしました。

研修では、まず、6月の研修でもあった名刺を使つての自己紹介から始まり、事前に課題を伝えて質問に答えてもらった用紙を見ながら行いました。自己開示では自分のことを相手に伝え、自己覚知で自分を知ることが出来たように思います。

報連相は「いつでも相談出来ない」と伝えるタイミングが難しかったようで、今後の課題との事でした。

6月に仕事の振り返りをしたマトリックス図を振り返ると、重要度が高かった内容でも変わり、施設や個人によっても異なることの気付きとなっていました。また、振り返りの技法(KPT法)を用いて“出来た、出来なかった”ではなくポジティブ3:ネガティブ1の割合が大事、反省は悪かったことだけではない。と講義を受け、12月までの目標を振り返り、3月までの目標(現状、3月になりたい姿、具体的に行う行動、アフターアクション)を作成して研修が終了しました。

4月からは『先輩』と呼ばれる職員が、今回の研修を通して4月に不安だったこと、悩んだこと、分からなかったことを思い出して後輩から慕われる『先輩』、そして、後輩と共に成長してもらいたいと思います。

(人材育成委員 高橋)

中里こどもふれあい広場

いきいき

今年のおもちつきは これまでと少し変わっていました。
それは小さな乳児から人生経験豊富な地域の先輩方まで、実に幅広い年代の人たちが久良岐に集まり、同じ臼でお餅をついたということです。
いちばん小さな参加者は久良岐乳児院のお友だちでした。
かまどから湯気の上がるせいろが運ばれてきて、臼の中はもち米でいっぱいになります。
中里第三自治会会長 小林さんのコーチのもと、職員がつき手と返し手になっておもちつきが始まりました。
次々とこどもやその保護者、中学もやって来て、間もなく80歳になられる方も「昔とった杵柄とばかりご協力下さいました。
これまで久良岐に縁のなかった人も夫婦でお餅をつき、その様子をお子さんが見ている姿を、初春の日差しが包みます。
年の差 80年が、中里こどもふれあい広場 いきいきの活動を通してここに集い、新しい年を祝える平和と幸せを感じました。



久良岐乳児院からの参加者



いきいきのお手伝いは中学1年生



親子でおもちつき



ご夫婦でおもちつき
お子さんが見えています

施設からのお便り

久良岐保育園

久良岐乳児院

母子生活支援施設 くらき

くらき永田保育園



中里第三自治会 小林会長と息を合わせ
乳児院職員がおもちつきの場面です。

久良岐の園庭に集合！！！！

久良岐保育園

水色ジャンパーはくらきの印！！

見かけたら声を掛けてください！



ほっかほか会を開催しました



ほっかほか会とは・・・

お散歩をしている時や保育園の近くを歩いていると「くらきさ〜ん！」と地域の方に声をかけてもらえることが嬉しいです。私たちも地域の一員として、みなさんとつながっていきたい！地域に対して何かしたい！と考えた時にほっかほか会を思いつきました。昔と違って今は人と人との繋がりが希薄になったように感じます。世代を超えて子ども同士や子どもとおとなが会う場所として久良岐が地域で暮らす全ての人々の架け橋になればと思っています。今までの地域の方々との出会いに感謝をし、これからも繋がりの輪を広げていけるように今後もほっかほか会を続けていきます。次回は3月4日（土）を予定しています。

ほっかほか会で作った豚汁の食材は、いつも久良岐保育園の給食でつかう野菜を届けてくれる弘明寺商店街の「中村商店」と「伊東青果」のお店に保育園の職員が久良岐ジャンパーを着て買い物に行ってきました。ジャンパーを見てお店の方から「くらきさん！」と温かく声を掛けてくれました。新鮮な野菜を丁寧に選んでくれて、『普段の給食の美味しさの原点はここにあるのだ！』と確信しました。

12月半ばの土曜日。
記念すべき第一回ほっかほか会になんと・・・
57名の方が来てくれました！！地域に住む親子や久良岐の卒園児が遊びに来てくれました。大きな園庭に子どもと大人の笑い声が響きわたり、寒さを忘れるくらい元気に子どもたちが走りまわって遊んでいました。おもいっきり体を動かして遊んだ後は私たちが作る美味しく・心があたたかくなるおむすびと豚汁を食べてもらいました！
地域の方にもお手伝いをしていただき、無事に1回目を終えることができました！

いつも園庭開放の時に遊びに来てくれるお友だちも参加してくれました。縁側や築山に座り、「あったかいね」「おいしいね」という会話が聞こえてきました。豚汁を食べて体の芯が温まり、**やさしく・ふんわりと握ったおむすび**で心が温まる。私たちのそんな願いがこのおむすびには込められています。みんなの心に届いていますように。



～在籍児や退所して間もない児に対する支援・地域貢献の実際について～

久良岐だより 68.69号では「乳児院の広い支援/長い支援」について具体的な活動の内容をお伝えしてきました。
今回は、在籍児の保護者や退所して間もない児・乳児院の周りで生活する地域の方などに対してどんなことを行なっているのか。
その支援や地域貢献の実際をお伝えしていきます！

養育を伝える



入所児の保護者には子ども達がお家に帰るための支援を行います。
保護者と子どもの関係を積み上げます。

レスパイトの受け入れ



子ども達が自宅や里親宅、施設...
どこへ行った後でもいつでも帰ってこられる
場所として受け入れています。
保護者の帰省、リフレッシュのための
短期のお預かりなどにも対応しています。



大きくなってもお家はお家！
皆帰ってきて職員に甘えたり
ゆっくり遊んで過ごしたい...

里親を目指す方に

実際に職員と子どもが係わる姿から
養育をお伝えしていきます。



実習生・ボランティアさんも受け入れ乳児院での養育を伝えています。

相談に向き合う

お子さんが家庭に帰った後の保護者の相談
お子さんを引き取った里親さんの相談
公園や病院で出会った方々の相談にも...

乳児院には心理士もいます。

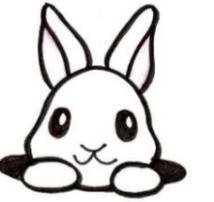
多くの経験を活かし相談に向き合っています。

お子さんも一緒にボランティアへ。一緒に過ごす中で、自然と悩みがこぼれることも...話して気持ちが少し軽やかに♪

南区の福祉部会にも参加
役員も順番に引き受けています!!

裁縫やカメラなど特技を生かしたボランティアさんたちが大活躍中です！

久良岐乳児院



明けまして

おめでとうございます



2023年 正月

本年もにぎやかな乳児院の子どもたちを暖かく見守っていただけたら幸いです。
宜しく願い致します。
コロナにも負けず、健康な1年を...

子ども達と一緒に新しい年を迎える準備をし、新年をお迎えしました。





演劇ワークショップ「おしほいであそぼう！」

ご自身も俳優、演劇ワークショップの進行役として活動する有吉宣人先生を講師としてくらきに招き、子どもたちが「普段の自分」とは違う役になりきって表現の幅を拓け、自分の思いを発散する機会とすることを目的として企画した本講座。

子どもたちは、家や学校、習い事、学童 etc.といった様々な生活の場の中で、いろいろな人と関わり合い、毎日一生懸命にがんばっています。その分、日々の生活の中で、自分の思いを出せずに溜め込んでしまう子や人に当たってしまう等の方法でしか気持ちを吐き出せない子もいます。

今回の演劇ワークショップでは、そうした様々な思いを、「演劇」という一つの手段を使って、楽しく表現する方法を学んでほしい。そして、こうした経験が子どもたちのコミュニケーションや表現方法に活かせることを願い、さくらプラザと共に企画しました。

子どもたちの豊かな発想力！

子どもたちの豊かな発想力には大人も舌を巻いてしまうほど…。
たとえば、右の2枚の写真の子ども達がそれぞれ何を表現しているかわかりますか？
ヒント：①「ガオー！」大昔に絶滅した生き物
②夏になると夜空に打ちあがる花

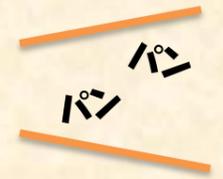
有吉先生が出すテーマに沿って、子どもたちは身体を動かし、ダイナミックに表現していきます。また、「お花見」をテーマにした即興劇では、子どもたち自らが考え扮したのは、なんとレジャーシートやリュックサック役！レジャーシートになりきった女の子が、「痛いよ～、重いよ～」と発する台詞に、思わず笑いに関心の声が上がります。

日々の生活の中で、子どもたちはそれぞれの目線に立って、様々なことを感じ取りながら過ごしている事が改めて感じられ、子どもたちの持つ力の素晴らしさに、今回のワークショップを通して、改めて感じさせられました。



これは何の
ポーズでしょう？

あけまして
おめでとうございます



地域の方から
立派な羽子板を寄贈して
いただきました！



くらきでは、正月になると、中里時代から長年大切に用いられてきた羽子板を飾っていました。しかしながら、経年劣化によりボロボロになってしまったため、地域の皆様に寄贈協力をお願いしたところ、2名の方から快く羽子板を寄贈いただきました。

寄贈いただいた際に、地域の方から見るくらきのイメージを率直に何うこともでき、一部の方にはくらきがどのような施設なのか浸透してきていると感じられる反面、まだまだ子どもが沢山いる施設、といったイメージ止まりであることも感じられました。今後も積極的に地域の皆様と関わり合いながら、くらきをもっと知ってもらえるように尽力します！

地域の方からの子どもへの思い



玄関を眺めてみたら・・・

くらき永田の玄関には、様々な物が飾られています。何気なく飾ってあるものですが、一つひとつ眺めてみると保育園に関わった地域の方からの頂いた物が多いことに気がきました。羽子板などの季節の飾り物、自分の特技や趣味を活かしたつくりものなど、ずっとご自宅で大切に使用していた宝物を「家にあるよりも子どもたち見たり、使ったりして活用してもらいたい。」「子どもたちに見てもらった方が絵も喜びます」と譲り受けた物が多くあります。改めて、玄関を見回すと寄贈してくださった皆さんのお人柄や子どもたちへの思いが感じられ、くらき永田保育園は地域の方々に支えられていることを実感します。玄関は『地域と保育園の関係性』がにじみ出てくる空間なのかもしれません。



クーベルチップ 絵本読み聞かせ& 絵本販売会

いつも保育園で絵本販売をしてくれているクーベルチップさん。今回は園児ではなく、地域の子育て中の皆さん向けに絵本の読み聞かせと絵本販売をして頂きました！



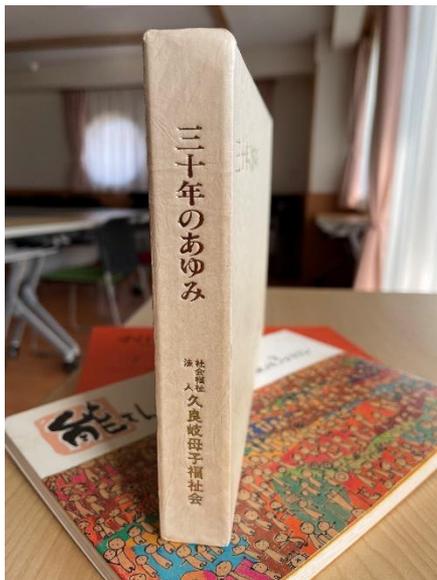
イベントのチラシを年長クラスの子
どもたちが公園や
お散歩している方
にビラを配って宣
伝活動をしました。



当日は、近所の方だけでなく、バスや電車を使
ってきてくれた方が沢山いました！お店、地
域、保育園の関わりをこれからも大切にしてい
きたいと思います。



編集後記



探し物が見つかりました！
4年もの間、この本は寒くて暗い部屋の片隅の段ボールの中にじ~つといました。昭和57年3月発行の「久良岐三十年誌」です。ページを開くと「物心均衡」の文字。当時の神奈川県知事津田文吾さんによるものです。これは久良岐を知るためのおすすめの本です。そしてこの本のデザインと構成、表紙に用いた色のセンスは41年の時を経ても人の心をとらえます。強く正しく明るく理念は不変であり、一方で時代や社会と共に歩み続ける久良岐の姿はすでにこの1冊に描かれていました。
(広報委員長 内田)

第70号
令和5年1月12日発行
編集委員
高山 吉田（久良岐保育園）
中島 平良（久良岐乳児院）
太田（母子生活支援施設くらき）
斎藤（くらき永田保育園）
広報委員長 内田（久良岐保育園）